

龍三太郎

大英

水田產稻文藝藏

魁難波戰記  
實錄九卷

白浪五人男上平

此は、江戸時代中期の書道作品である。紙に墨で書かれた文字は、縦書きで、右から左へと読む。文字は非常に大きく、力強く書かれており、墨の濃淡や筆の運びが特徴的である。

最上段には、大きな文字で「大徳寺」と書かれている。その下には、多くの文字が縦書きで並べられており、これらは「大徳寺」の歴史や、この書道作品の背景に関する情報を提供している。

中段には、再び大きな文字で「大徳寺」と書かれており、その下には、さらに多くの文字が縦書きで並べられている。

最下段には、大きな文字で「大徳寺」と書かれており、その下には、最後の文字が縦書きで並べられている。

この書道作品は、江戸時代中期の書道文化を代表するものである。墨の濃淡や筆の運びが特徴的であり、文字の大きさと力強い筆遣いが印象的である。